

D×P ANNUAL REPORT 2018-19



Dream times Possibility

「ユメ」と「可能性」

「ひとりの人間として、ネガティブな部分もポジティブな部分も両方認めながら、高校生と関わっていく」という決意をこめて。明暗を抱えながら人を受け入れる夕暮れの空の色をイメージして2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行い、社会的インパクトを出す」という決意を表しています。

線の中央は、高校生と社会をつなぐ「結び目」を意味しています。

Dream(心に描くユメ)とPossibility(可能性)が無限に広がるようにという願いを込めて「∞(インフィニティ/無限大)」の字が隠してあります。



D×Pと、ひとりひとりの高校生をご支援くださっている皆様へ感謝を込めて。

若者につながる場といきるシゴトをつくる

ディーピー
認定NPO法人 D×P

活動報告書 2018-19



認定NPO法人 D×P (ディーピー)

〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町1-27
ファラン天満橋33号室

info@dreampossibility.com
www.dreampossibility.com

札幌拠点
〒064-0804
札幌市中央区南4条西6丁目8-3 晴ばれビル9階
(株)オフィスBee内

@npo_DxP
www.facebook.com/npodxp

京都拠点
〒604-8245
京都市中京区六角油小路町345-2
傍案内

取引銀行 三菱UFJ銀行 大阪京橋支店 普通 0072241
楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724

理事 今井紀明/塩田陵/村中直人/川上竜典/入谷佐知
監事 毛受芳高
顧問弁護士 高橋健
写真 西川優介/磯みずほ
デザイン 雪崩式

スタッフ 小園明日香/玉井慎太郎/佐々木貴史/森下祐子/野津岳史/西村征輝/
岡田暹/岡崎拓也/宮崎あゆみ/大宅穂香/磯みずほ/熊井香織/
中川沙登美/原口西/高橋正光/釜場彩葉/綾井佳乃子/井階正純
以下、2018年度内に卒業したスタッフ
金子祐樹/塩谷友香/岩本崇志/藤井彩/村井彩乃/垣内穂佐奈/黒島萌/
三原里菜/香野晶/中澤太一/稲葉通全/岩橋紀枝/上野貴之/丸川千夏/
下西夏帆/池田歩/伊森香南/今井健翔/大野英子



「生きていける」と思えるような
人とのつながり

もしも、わたしたちが関わった高校生が卒業後に苦しい出来事があったとする。上司に暴言を吐かれた。休暇がとれない。パートナーと別れた。病気になった。そんな困難が巡ってしまうことも、どうしても起きてしまうと思う。

でも、その卒業生が困ったときに頼れる先がある、そんな状態であれば。

「あ、あの人にちょっとLINEしようかな」と思って、すぐ連絡ができた。ちょっとした集まりに顔を出して、今の状況を話したり。こういう仕事や制度もあるよと言われ、社会のリソースに繋がったり。

「自分にはこじかない」と思うと、追い詰められてしまうかもしれない。真っ暗でも何も見えないように感じて、この人の顔をちょっとでも見たい」と思えるようなつながりが一筋でも、あったら。

生きるなかでは、様々なことがある。離職も離婚もするかもしれないし、病気や障害を抱えるかもしれない。災害にだって遭うかもしれない。これを読んでいるあなたも、誰もが、生きているなかでさまざまな困難に出会う。

でもそんな困難のなかでも、「生きてみてもいいかな」という希望を持てるようなつながりをつくりたい。若者本人が希望を持ちたいと思った時に持てるようなつながりだ。辛いときに自然に戻ってきたり、寄り添えたり。頑張りたいと思えば、頑張ることもできる。思ってもみなかった仕事に出会ったり、住む場所にも出会える。

「就職」そのものはゴールじゃない。それよりも、これからは生きていけるような「つながりを得られる状態」をつくりたい。D×Pは10代にフォーカスしているけれど、わたしたちが目指す社会は誰にとっても大きなセーフティネットとなるはずだ。

2018年度、D×Pでは894名の高校生と関わった。卒業後の進路のサポートをする「ライブエンジン」を4校で実施。学内に安心できる居場所をつくる「いごちかふえ」は2校で実施することになり、「クレッシェンド」は15校で実現。LINE@などのオンライン上でのサポートもはじめた。

一方で、様々な事業を始めたのにも関わらず事業間での連携がうまくいかない場面に出会った。自分たちの力不足にも直面した。組織としても過渡期を迎えたように思う。スタッフが増え、現場の数が広がることで、数年前に巡り合った課題にもう一度出会い、足踏みをしているような気持ちになることもあった。

だけど、こんなこともあった。先日ある卒業生に、増設した事務所に遊びにこないかと声をかけた。「卒業したらD×Pの人から追い出されたって感じで寂しかったけど」

の言葉に反省した。でも、声がかげられたことを遠回しで喜んでいるようでもあり、ほっとした。そのときの雑談から卒業生主催のゲーム部を開催することになった。現役の高校生も呼んで、お菓子とジュースを買ってのゲーム大会。友だちの家の中のように楽しそうに過ごして、「めっちゃ楽しかったっすわ」と笑う。「ゲーム」というつながりだってある。それがきっかけで、働くことについての悩みを伝えられて、新しい仕事に向けて動き出した卒業生もいる。

仕事から得られるつながりも、暮らしから得られるつながりも、様々につくれるはずだ。多種多様なつながりが得られる環境を生み出して、この社会に大きなセーフティネットをつくっていききたい。

認定NPO法人D×P(ディーピー) / 経営ボード

今井 紀明・川上 竜典・入谷 佐知



ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる社会をつくる

D×Pは、通信・定時制高校に通う高校生を中心とした若者に「つながる場」と「いきるシゴト」を届けるNPOです。

「自分の"これから"に希望があると思えない」
日本には、そんな状況に置かれている高校生がいます。

定時制・通信制高校には、さまざまな事情を抱えた高校生がいます。
経済的に苦しかったり、発達障害・学習障害を持っていたり、
過去の経験から人間不信になっていた、
外国にルーツがあって言葉にハードルがあったり。
バックグラウンドは、それぞれ違います。

D×Pが
取り組む
課題

- 学校に行けなくなった
- 先生が苦手
- 友達がいない
- みんなと同じことができない
- 家にも居場所がない
- 勉強ができない
- いじめられた
- お金がない



人とのつながりがつくれず、
自分の未来に希望を持ってないまま
社会へ放り出される

通信制高校

進路が決まらないまま
卒業した生徒

約8倍

5%

全日制

41%

通信制

定時制高校

1年次に中退した生徒

約14倍

1.5%

全日制

21%

定時制

高校生ひとりひとりには、
可能性があります。

- 写真が上手
- SNSのフォロワーが多い
- イラストが好き
- プログラミングが得意
- 歌が上手
- 映画に詳しい
- 社長になりたい
- 周りに優しい



本人や周囲が気づくことができない
本人の可能性や機会があります

D×Pの
活動

つながる場をつくる

通信・定時制高校のなかに
つながる場をつくる

クレッシェンド
CRESCENDO



高校生が人とつながる場を教室のなかに作り、一人ひとりに寄り添いながら関係性を築いていきます。ボランティア「コンポーザー」と高校生との対話を軸にしたプログラムです。

居心地よい場を
地域や学校のなかに

いごちかふえ
IGOKOCHI CAFE



安心できる居心地の良い空間を学校や地域のなかに作り、高校生が定期的に人とつながることができる場をつくれます。地域のお店と連携して食事を無償提供する場でもあります。

いきるシゴトをつくる

学校とオンラインにある
進路相談室

ライブラボ
LIVE LABO



定時制高校とオンライン(LINE@)に気軽に進路相談ができる場をつくれます。高校生一人ひとりに寄り添い、その人に合うシゴトや進路を考えるきっかけとなる機会を紹介します。

はたらく具体的な
イメージをもてる

ライブツアー
LIVE TOUR



高校生の状態や希望に合わせて「はたらく具体的なイメージをもてる機会」を提供します。1日目の職場見学や1ヶ月程度までのインターンシップなど様々な機会をつくれます。

いきる暮らしをつくる

高校卒業後も
つながり続けるためのコミュニティ

卒業後コミュニティ

在校生や高校を卒業した元生徒が気軽に参加し、つながれる場をつくれます。仕事や生活していく上で困る前に相談できたり、困ったときに解決できた実績を作っていきます。

現代の駆け込み寺
シェアハウス × D×P

リバ邸 (箕面・十三)

「世の中の枠組みや空気に苦しなくなった人たちが集まる居場所であり、そこで各自が何かしら独自のアウトプットを追求する場所」を提供するリバ邸とコラボレーションし、シェアハウスを2軒運営しています。若者に住居を安価に提供し、孤立を防ぎます。

実験中

Highlights of 2018

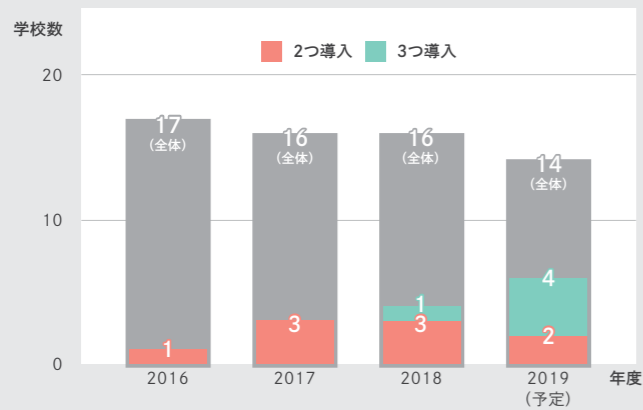
2018年度・D×Pの取り組み

1

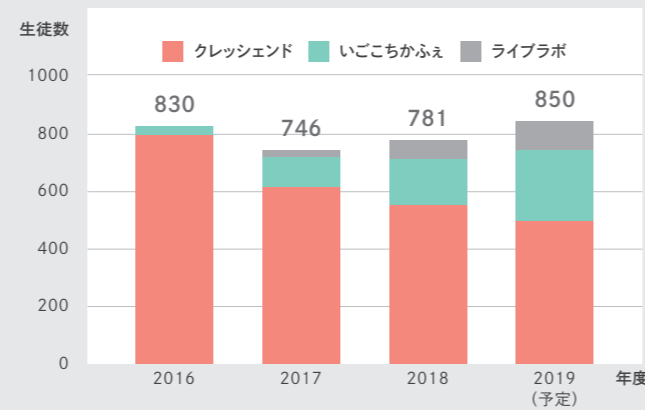
2つ以上のサービス導入校が4校に。 いごちかふえやライブエンジンなど他事業との連携を強化。

2018年度はD×Pのサービスを導入する学校を増やさず、複数のサービスを導入する学校を増やしました。クレッシェンド単体ではできなかった進路に向けたアプローチや、日々変わる生徒同士の人間関係の把握など、様々なことができるようになりました。2019年度は、2つ以上のサービス導入校を6校に増やし、学校別に担当者を設けました。クレッシェンド、いごちかふえ、ライブエンジンの運営を、1人の学校責任者と担当スタッフが話し合っていくことで、よりサービス間の相乗効果を生み出せるようになりました。

学校数とサービス導入校



各サービス生徒数

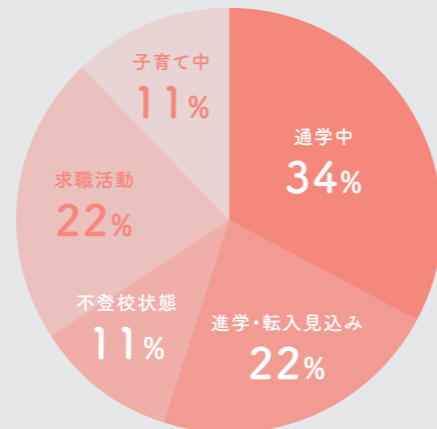


2

泉大津市と連携した いごちかふえが終了

2014年より、泉大津市(大阪府)と連携して行っていた地域のなかにある居場所事業「いごちかふえ」が終了しました。2017年度は、50%の生徒が就労を経験、25%の生徒が進学を決めました。2018年度は、進学先を卒業し次の進路に向かった生徒もいました。成人していて、既にライブラボに繋がっている生徒に関しては継続フォローを行い、その段階に至っていない人は、卒業後コミュニティにてフォローを行います。また、LINE@相談事業のチラシを配布し、困った時や連絡をとりたい時に繋がれるように案内しています。

参加生徒の
最終日(2019年2月)時点の状態



3

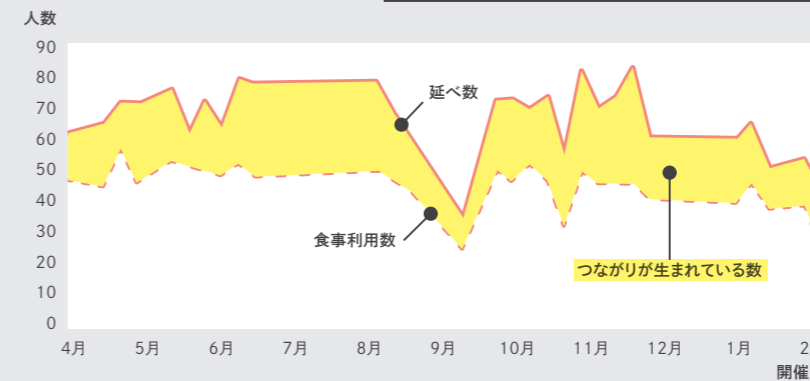
いごちかふえを 大阪府内の定時制高校2校で実施。



実人数 **156** 名
延べ人数 **2,051** 名

年度途中の12月より新しくいごちかふえを導入した高校では、2019年3月までに3回開催し、実数43名・延べ数88名が訪れました。在校生の46.2%が訪れています。

ある定時制高校での、1年間の利用者数と食事利用数



昨年の調査では、利用する生徒の27%が「毎晩夕食を食べない」と回答しており、毎回約50食用意する食事がほぼ売切れします。食事の必要性があるとともに、スタッフとの会話や生徒同士の交流などの目的で利用する生徒も通年通して一定数存在することが分かってきました。月の来場者数の延べ人数から、食事利用のみの生徒を差し引いた数を人との『つながりが生まれている数』と定義しました。この数が増えるように取り組んでいきます。

4

学校内での進路相談に加え、 オンラインでの相談事業がスタート

LINE@
登録者数 **104** 名
相談者数 累計 **31** 名
ひと月の
平均相談者数 **10** 名

※2018年11月～2019年2月

気軽に利用しやすいSNSを通して、困難を抱えた10代がいつでも相談できるようLINE@相談事業をスタートしました。進路や就職の相談だけでなく、引きこもりがちな生徒からも連絡があるため、不登校や引きこもり状態の10代に向けたオンラインコミュニティ『cocobase(ココベース)』を開始。LINE@の1対1のやりとりと共に、オンライン上で双方向につながる場も広がっています。

5

事務所増床、より高校生が 集まりやすい場所へ



事務所を高校生に開放する『高校生ワーキング』のメンバーは、昨年より6名増えて、10名になりました。また、クレッシェンドで出会った高校生が遊びに来ていたり、卒業生を中心として始めたゲーム部を開催したりと、事務所で高校生と会うことも増えてきました。クラウドファンディングにより事務所増設が実現したことで、少しずつ高校生が集まりやすい場所となってきています。

通信・定時制高校のなかにつながる場をつくる

クレッシェンド

CRESCENDO

高校生が人とつながる場を教室のなかにつくり、
一人ひとりに寄り添いながら関係性を築いていきます。
大学生・社会人ボランティア「コンポーザー」と高校生の対話を軸とした、
1～3ヶ月、およそ全4回のプログラムです。
「総合的な学習の時間」などの枠組みのなかで授業運営をしています。

コンポーザーとは？

クレッシェンドと一緒に形づくる、大学生・社会人ボランティア。
一方的に「教える」立場ではなく、高校生の話に耳を傾け、
一人ひとりの考えを受け入れ、学び合う大人です。
D×Pがクレッシェンドで大切にしている**3つの姿勢**に共感し、
体現する人が集まっています。



D×Pが大切にしている姿勢

「ひとまとまり」でなく
「一人ひとり」と向き合う

発達障害の人・女性/男性・
不登校経験がある人だから…
とまとめるのではなく、
目の前の一人ひとりと向き合います。

否定せずに、関わる

相手や自分の考え方、価値観、
在り方を否定せずに、
なぜそう思うのかと
背景に思いを馳せながら関わります。

様々な年齢や
バックグラウンドの人から学ぶ

年下、年上、生まれた環境、
社会的な立場に捉われず、
その人の価値観や考え方から
学ぶ姿勢を大切にします。

ある高校でのクレッシェンドの様子

第1回プログラム

初めまして、こんにちは



ワーク例：カブラ

カブラという積み木を使い、グループごとに高さを競ったり、テーマに基づいて形を作ったりするワークです。グループメンバーとカブラを積み重ねることがメインの作業となるので、書いたり話したりするのが苦手な生徒にとっても参加しやすく、初対面同士でのチームワークの醸成もしやすくなっています。



Wちゃんの様子

朝までゲームをして昼に起きる生活をしているそうです。その他、好きな物事についてもたくさん話していました。コンポーザーが席替えをするときに、「残念や」と言っていました。

第2回プログラム

人生色々あるんです



ワーク例：過去のジブン

生徒がコンポーザーの過去について話を聞く、対話する時間です。コンポーザーは、過去の辛かった経験談をメインに話します。生徒の抱える悩みや問題を客観的に捉えられるようにすること、これから一緒にプログラムを行うコンポーザーのことを知ってもらうことを意図します。



Wちゃんの様子

コンポーザーが話し終わり、グループのメンバーがばらけたときに「小学校時代、女子の陰口やウソが嫌で男子と遊ぶことが多かった。中学でも女子の行動や言動には違和感を感じ、一緒にいないようにしていた。」とコンポーザーに共感を伝えていました。

第3回プログラム

これまでとこれから



ワーク例：自分史

テーマに沿って自分の経験を付箋に記入します。年齢を示した模造紙に付箋を貼りながら自分の経験を話します。お互いのことをより知り、経験や考えを受け入れられる環境があることで自分のことを話しても良いと思える機会になることを意図します。



Wちゃんの様子

付箋はあまり使わず、自分の経験を話していました。「クレッシェンドが癒やしの時間だった。家では話を聞いてくれないので、聞いてもらえるのがうれしい。たくさん褒めてくれる人と将来一緒にいたい。」と話していました。去年のクレッシェンドは、ほとんど喋らなかったのですが、今年は慣れたと言いつつ放課後の片付けまで手伝っていました。

第4回プログラム

みんなでユメブレ



ワーク例：ユメお絵かきとユメブレスト

「自分がちょっとでもやってみたいこと(=ユメ)」を考えて、画用紙にクレヨンで絵や文字などで自由に表現する時間です。その後、グループで描いた絵を見せながら順にそれぞれの言葉で話します。自分の言葉で自分の考えを話し、受け入れてもらえる環境があることで、自分を表現しても良いと思える機会となることを意図します。



Wちゃんの様子

「絵はそんなに上手ではないので、趣味にするかな…。でもやっぱり将来は絵を描く仕事がしたい。」とイラストを描きながら話していました。「クレッシェンドが終わることがとても嫌だ。来年も絶対やってほしい。」と話し、この日も片付けまで残っていました。先生からは、「寂しいんやろ～」と突っ込まれていました。

課題

評価軸の取り下げ

2017年度にクレッシェンドの評価軸を定めました。しかし、評価軸を定めたことにより、D×Pの価値観である「否定せずに、関わる」に反し、生徒の状態を否定的に考えてしまうことがありました。2018年度は評価軸を一旦取り下げたことにより、価値観に基づいて生徒一人ひとりの状態に寄り添うことができるようになりました。

一方、新たな評価軸を年度中につくることができず、客観的な評価軸がないままクレッシェンドの運営を行うことになりました。会議でも、話し合いがまとまらない状況が続き、運営が非効率になりました。

これから

各学校ごとにサービス展開

ゴールを「生徒が卒業後も社会関係資本を得られる状態」だと定め、そのための取り組みを各学校ごとの状況に沿って定めていきます。1校に対しサービスを2つ以上導入し、相乗効果を生み出しながら運営することでより質を高めます。

クレッシェンドの役割を言語化

これまでの情報を元にクレッシェンド単体の評価軸を定めなおしました。クレッシェンドの役割は、「1次的に社会関係資本を得られること」だとして、「人と関わって価値があったな」と思えるような瞬間を1つでも多く出せるよう取り組みます。

価値観のズレを生まないために

D×Pが大切にしている姿勢に対する認識を深めるための研修を改善します。この姿勢は、福祉・発達障害などの専門分野の観点からみても、必要な価値観です。新たに専門分野の研修も行い、理解を補っていきます。

安心できる居心地よい場を地域や学校のなかに

いごちかふえ

IGOKOCHI CAFE



いごちかふえは、高校生が定期的に人とつながることができる場です。
「否定せずに、関わる」などの3つの姿勢を大切にして生徒と関わっていきます。

定時制高校で開く『いごちかふえ』

① 高校生が自分らしく自己表現できる場

環境との相性や何らかの要因で、本来持っている自分を発揮できない状態の生徒は少なからずいると感じます。生徒が抱えている困りごとを聞くにも、持っている能力や魅力を発揮するにも、まずは自己表現が出来る環境づくりが大切だと考えています。

② 食事の無償提供

限定50食の食事を毎回メニューを変えて用意しています。時間やお金に余裕がなくご飯を食べない生徒も多いため、食事の無償提供を行なっています。また、「無料の食事をもらいに行く」を口実に、相談事がなくても行けるような場づくりに一役買っています。

③ 様々な人との連携

学校の先生・ソーシャルワーカーと情報を共有し、高校生をサポートしています。様々な人と連携し、高校生の次の一歩につながるきっかけを提供します。



Today's Staff

実績

実人数 延べ人数
156名 **2,051**名

年度途中の12月より新しいいごちかふえを導入した高校では、2019年3月までに3回開催し、実数43名・延べ数88名が訪れました。在校生の46.2%が訪れています。

ライブラボでの
進路・就職相談 **7**名

「アルバイトをしたいけれど、体力的にできるのか。」「障害者手帳を持っているが一般就労を考えている。」などの相談を持ちかける生徒や、話を聞く中でアルバイト先の勤務環境が悪い生徒や、家庭環境がよくない生徒など、ひとりひとりの背景も見えてきました。

ライブツアー
参加 **7**名

ゲーム会社への職場見学が4名、TECH募金参加が1名、D×Pが主催したドイツのアートプロジェクトへの参加が1名、いごちかふえへの食事提供企業でインターンが1名でした。生徒本人が好きなゲームを通じて職場見学に参加し、知見が広がったと話す生徒もいました。

2018年度の取り組み

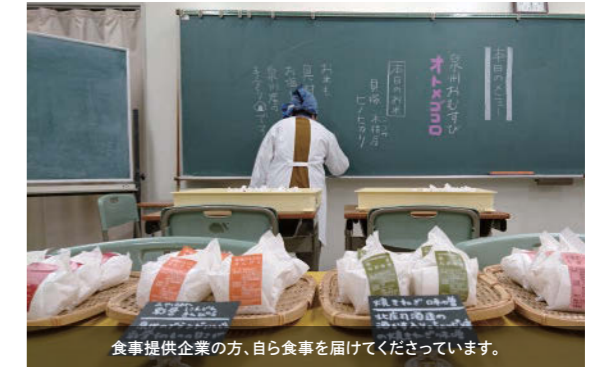
生徒が色々な生き方と出会う場づくり



ネイルチップ作りのワークショップを実施しました。

「どんな職業があるかわからない」という生徒の声があり、先生ご自身も世の中にある職業を十分に把握できていないというお話を伺いました。そこで、多様な仕事をする大人13名・食品提供者7社にいごちかふえにご参加いただき、高校生が多様な生き方に触れる機会をつくりました。また、普段の会話から生徒のニーズを確認できた場合は、個々の生徒の興味に沿った企画を実施しました。※個別企画は、来年度以降更に増やしていきます。

様々な人との連携強化



食事提供企業の方、自ら食事を届けてくださっています。

担当以外の先生とも情報交換が活発になり、関係性が築けてきました。「この生徒のこの部分の対応をD×Pにお願いしたい」とご依頼いただいたり、職場見学も先生方と協働して実施しました。また、食事提供企業で生徒のインターンシップを受け入れて下さったり、地域の企業の方から「この生徒にこのイベントのスタッフを紹介するのはどうか?」といったご提案をいただきました。地域の方がより積極的に生徒に関わってくださっています。

自治体連携の居場所事業

何もしなくても良い、いごちの良い居場所を提供し、
本来の自分を取り戻せる場所になるように運営してきました。
また、これからの自分をみつける・考えるを目的としたキャリア教育プログラムと
食や栄養、健康を考えた食育プログラムを1年で13回実施しました。

プログラム開始時に生徒が抱えていた課題

- ・継続的な人間関係をうまく構築できない
- ・学力に課題がある
- ・所属がないため、時間とエネルギーを持って余している
- ・健康的な問題を抱えている
- ・不登校傾向がある
- ・家族関係のトラブルにより精神的に落ち込んでいる
- ・様々な事情により、家庭や学校で一般的に得られる知識や経験(金銭管理・健康管理・衛生管理)が不足している



取り組み一例

調理を通して「自己実現」の経験を積む



ある生徒の様子

スタッフが声をかけても「やらない」と答えていましたが、途中からメニューを見ながら段取りよく自分の作業を進めていました。作業工程をスタッフが尋ねると明確な指示を出したり、余った食材を使って別のメニューを作ったりしていました。料理の感想を伝えると笑顔を見せ、担当した作業に関しては「苦ではない」とも話していました。

ライブエンジンとの連携や外部での個別対応

将来を具体的に考える前の段階にいると感じる生徒には、向き不向きを知り自分の将来を具体的に考える材料となるように様々な経験の場を提供しました。就職を考える生徒には、生徒の主体的な意思のもとに、職場見学などを行いました。採用が決まった後も定着支援と本人の状況確認をしていました。

最終日の生徒の様子

「いごちかふえ最終日にやりたいこと」を生徒と企画し、これまでの思い出を振り返り、生徒自身が自分の強みや自己効力感を感じられるイベントを実施しました。お笑い好きの生徒はネタを披露したり、一人ひとりに手紙を用意した生徒は、膝を抱えて泣く場面もありました。就労し今年度の参加頻度は少なかった生徒は「どんな話もちゃんと聞いてくれた場所」など感想を話していました。普段は直接話すことがない生徒同士も、メッセージ交換の際にお互いの想いを伝えあっていました。終了したあとも互いに写真を撮りあうなど、なかなかその場を去ろうとしませんでした。

いきるシゴトをつくる

ライブエンジン

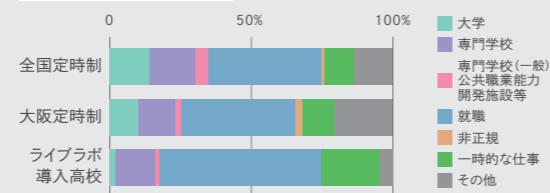
LIVE ENGINE

この社会にはもっと多様な生き方や身の置き方があるはず。
一人ひとりを見つめ、働くことができる環境と若者を繋げたり、
まだこの世にはない新しいシゴトをつくるサポートをします。

高校生を取り巻く課題

全国の定時制高校の卒業後の状況に比べると大阪府内の定時制高校では、一時的な仕事(アルバイトなど)についての進路未決定を含めたほかが7.19%多くなっています。大阪府は、生活保護受給率も高く、家庭でも困難を抱える生徒が少なくありません。卒業後に所属がなくなり孤立する可能性があります。
定時制高校の先生方へのヒアリングでは、「自分の希望を表し出せなかったり、バイトをしたことがなく仕事のイメージがつかない生徒などが、迷ってしまう」「障害があったり、グレーゾーンの生徒が自分に合う就職先を見つけていくことが難しい」などの声がありました。求人票の公開が始まる卒業年次の7月までに、一人ひとりの生徒が自分の進路に向けて動き出すことができるようにサポートしていきます。

定時制高校卒業後の状況



※ 全国の定時制・大阪府内の定時制については、平成30年度の学校基本調査よりグラフ化。ライブラボ導入校のうち2校の卒業後の状況をまとめました。
※ ライブラボ導入校の「その他」が大阪府内の定時制高校の状況より少なくなっていますが、D×Pから、就職先を紹介したケースはありません。

学校とオンラインにある進路相談室

ライブラボ

定時制高校と連携し、高校生が気軽に進路相談できる場を学校のなかにつけています。高校生一人ひとりの特性に寄り添い、その人に合うシゴトや進路を考えるきっかけとなる機会を紹介していきます。また、LINE@を用いて、全国から相談ができる窓口も開いています。宮崎県日南市と提携し、生活困窮家庭の10代の相談を受ける体制もついています。

学校導入

4校

LINE@登録数

100名

相談人数(LINE@含む)

73名



相談事例



Aさん

定時制高校2年生。
起立性調節障害をもっており、
自分の体調に合わせて
仕事をするイメージがつかない。

STEP1

一緒に話していくなかで、フルタイムの働き方ではなく時間の自由度の高い仕事をいくつか提案→その中で、プログラミングを使った仕事に興味をもつ。

STEP2

無料でプログラミングを体験できる機会を紹介し、参加する。プログラミングのイメージができなかったが、実際に体験することで楽しく取り組めた。自分にもできるかもと思った。その後TECH募金を通じて、プログラミングを学ぶキャンプにも参加した。

はたらく具体的なイメージをもてる

ライブツアー

参加者数
54名

うち、就職に繋がった人数
9名

高校生一人ひとりの状態や希望に合わせて「はたらく具体的なイメージをもてる機会」を提供します。1日のみの職場見学や体験から、1ヶ月程度までのインターンシップ、プログラミング体験のようなイベント参加などさまざまな機会をつくります。

TECH募金

若者を支援するD×Pと育て上げネットの協働で行われたTECH募金。
5名の高校生にノートパソコンの無償提供とIT・プログラミング・クリエイティブを学ぶキャンプに無料参加できる機会を届けました。



参加者
Aさんの声

私はまだ何をやりたいかは、特に決まっていません。自分に出来ることを増やして、世界を広げたいと思い応募してみました。プログラムを見ると、うちの家庭では東京に行く交通費だけでも経済的にキツくて、とてもじゃないけど行かせてあげられないとお母さんが言っていたので、とてもありがたいです。私自身一人で東京まで行く機会がなくて、パソコンの事だけでなく行って帰るまでとてもいい経験になりました。



参加者
Bさんの声

これからの人生の大切な一歩になったと思いました。僕みたいな外国人はなかなかこういう機会がなく、経済的にもキャンプに参加するお金を出すことは難しいと思います。このキャンプに参加し、プログラミングに興味を持っている人たちがたくさんいてとても嬉しかったです。この先、人々の役に立つプログラムを作る事ができるのか不安になることもあるかもしれませんが、少しずつ努力してプログラムを作ってみます。

フィリピン スタディーツアー



参加者
Cさんの声

SNSの通知に縛られて、欲しいものはだいたい手に入って、本当に大切なものは何なのか分からなくなった。そんな状況で私はフィリピンを訪れました。フィリピン滞りのなかでもベレーズでは、学びも多く自分を見つめ直す時間が多くありました。ベレーズの人々の生活は非常に苦しいと感じましたが、シンプルで幸せと言える面も多く、自分が幸せに生きていくために必要なものはそんなに多くはないのではないかと思います。



参加者
Eさんの声

仕事が「お金のため」ではない人ばかりで、すごく良いなあと思った。訪問した企業は、アイデアを浮かべるには最適なところでした。また、ONとOFFを大切にしているなと思いました。今回の企画に参加して、ITの最先端を知ることが出来ました。自分が何がしたいかなどを改めて知ることが出来てよかったです。



2018年度の実施実績

ライブツアー先

ライフイズテック株式会社 Life is Tech! サマーキャンプ2018 参加/NPO法人ハックジャパン プログラミングインターン/株式会社Samurai Gamers 職場体験インターン/エーゼロ株式会社 西栗倉村訪問/株式会社村田ソフトウェアサービス プログラミングインターン/株式会社セールスフォース・ドットコム Workforce Ready 参加/株式会社ロックシステム 職場体験インターン/NPO法人CLACK プログラミングインターン/LINEスタンプ作成/ Great Luck FES インターン/福岡スタートアップ女子白書 参加/今井紀明 かばん持ち(10回以上)

企業訪問先/就職先

株式会社Samurai Gamers/株式会社ロックシステム/リタワークス株式会社/株式会社CAMPFIRE/株式会社セールスフォース・ドットコム/株式会社Phone Appli/オトメゴコロ/株式会社近畿サービス/株式会社taliki/合同衛生株式会社/株式会社ハッシュダイ

2019年度改善点

2018年度は、ライブラボ相談者73名に対して、ライブツアーの参加延べ数が54人と少ない結果になりました。ライブツアーに繋げるための、相談業務の質向上と学校との連携、繋ぎ先の企業数に課題を感じました。

ライブラボの質向上

①研修の充実

より一人ひとりにあった企画・相談を行うために、社内研修を充実させます。発達障害やLGBT、児童福祉・高卒就労に関する知識を深め対応スキルを伸ばします。

②ケース会議の充実

一人ひとりと信頼関係を築いて、それぞれにあったサポート施策を検討するケース会議を充実させます。情報共有体制を構築します。

協力企業を30社に増やす

10社ほどライブツアー先の協力企業がありますが、業界の偏りもあり生徒の希望に添えないこともあります。説明会を定期開催して、企業側へも情報の周知に努めています。

INTERVIEW

生徒インタビュー



NPOの人が来るってきいたから
お堅いひとがくると思ってた。

ジャマネくん

定時制高校の卒業生。2019年の春から、デザインの専門学校に進学。金銭的に余裕がなく、高校生の頃は就職するしかないと考えていたそうです。

●高校の授業でクレッシェンドに参加したときは、どんな話をしたの？

初回は、ほんとに覚えてないんです…。その時の私は、ぜんぜんやる気がなくて。

●そうなんだ、どうしてやる気がなかったんだろう？

…めんどくさいなって(笑)。でも、あとから、ちゃんと話聞いて話すことをやっておけばよかったなと思って。

●どのタイミングでそういうふう感じたの？

それこそ、コンポーザーをやろうかなと思ったときに。高校生に、自分の過去の経験を話すためにいろいろ思い出している。どういうふう話を組み立てたりするんだろう?と思った時に、私に話をしたコンポーザーが、どう話してたのかを思い出せなくて、『聞く』という経験をしてこなかったのは勿体なかったなと思いました。

●大人の話ってなかなか受け取れないこともあるよね。

何かの活動をしている人だと、一方的に聞くだけのことが多くて。クレッシェンドは生徒側からも話すことができるし、聞くこともできるから貴重な経験だったなと思います。

●もうすぐ卒業だけど、今の専門学校はどんな感じ？

楽しいです。人との付き合いかたを変えたというか。今までは、自分が好きな人としか付き合えなかったり、自分の好みの人としか関わらなかったんです。専門学校は、いろんな人が集まっています。そのひとりひとりをちゃんと見るようにしたんです。この人の性格は苦手だけど、こういうところは尊敬できるなというのを探そうにしたら、関わるの楽しいじゃんって。今は、わりと人と関わるのが好きです。

ひとりひとりをちゃんと見たら、
関わるの楽しいじゃん。



じゅなしー

札幌にある定時制高校の卒業生。高校に在籍中クレッシェンドに参加し、卒業後はコンポーザーとして参加しました。柔道整復師になるための専門学校に通っていますが、卒業後の進路に迷っているそうです。

●クレッシェンドには、1・2年生で参加したんだよね。

NPOの人が来るって聞いたからお堅い人が来ると思ってたんです。実際は、全然違って。いろいろ話ができて楽しかったです。2年生のときに参加したクレッシェンドで、自分の将来を考えることをやりました。そこからですね、やりたいことやどうなりたいかを本格的に考え出して、自分のなかで固まってきました。バスケットやデザインも、高校卒業したらやらへんのかな?と思ってたけど、デザインを仕事にしたいなと繋がっていきました。それが、自分のなかで大きな影響がありました。

●4年生になってから、ライブラボ(定時制高校でD×Pが行う相談室)で再会したんだよね?

その頃、一人暮らしも始めたので進学するためのお金がなくて。就職するしかないと考えていました。ただ、考えていたデザイン系の職種は、美大や専門卒の条件があったので迷っていたんですね。そしたら、学校でたまたまD×Pのスタッフと会って。「水曜日に、進路相談室を開いているから、よかつたらおいで」って。スタッフと話したら、進学したいなと思いました。『じゃあ、お金をどうやって用意しよう?』と思った時、新聞奨学生という制度があることをネットで見つけたんです。自分は就職するしかないと考えてたんですが、AO入試も合格して…この4年間、自分が行き詰まったときにD×Pがきっかけで変わっていったと思います。

●なんだか、不思議なご縁ですね。これから、どんな大人になりたい?

仕事はデザイン系。食品とかのパッケージができればいいなと思っています。それプラス、自分は人に伝えるのが好きなので。絵本でも漫画でも

作ってあげたら。面白い販促物とかも。そんなふう生きていけたらいいですね。仕事は仕事、でも趣味もデザイン系。自分は、欲張りな性格なので(笑)。

そんなジャマネくんのいまは…

学業と平行して、自分と同じように家庭の事情により現状の奨学金制度ではお金が借りにくい高校生に向けた、給付型奨学金制度を作ろうと動いています。



●1年生の時、初めてクレッシェンドに参加したんだよね?

当時の僕は「引きこもり精神」を持っていたんです。あまり家の外に出たくなかったし、外向的な性格じゃなかった。そんな時、あるコンポーザーさんが「引きこもりの子がちょっとでも“外の世界”の人たちと話をして、その風景を楽しく思えたらいいな」と言っていて。

●そのコンポーザーさんの言葉を聞いてどう思った?

外の世界に出てもいいかになって。「ずっと家にいるのもなあ…」とうすうす思っていた時期だったから。この出来事がきっかけで、ちょっとずつクレッシェンドに興味をもつようになりました。

●それから、4年生の夏にドイツアートプロジェクトに参加したんだよね。

ドイツの学生さんと交流しながら描けることが一番よかったです。言葉が通じない時もあったけど、助け合って描くことができました。アートプロジェクトに参加して、たくさんの絵が好きなお友達と会って、「漫画家になりたい」という思いが強くなりましたね。

●生徒会で活動したり、ドイツに行ったり引きこもっていたなんて信じられないくらいに活動的だね。

僕は、外に出ることがなかなかできなかったのですが、D×Pのみなさんと関わりを持ってから、“外の世界”の見え方がけっこう変わってきたんです。だから、外とのつながりを持ったり、興味のあることに思い切って参加すると、これからの人生が楽しくなると思います。ずっと家にいるのではなくて、ちょっとでも外の世界を知ったら、楽しいことは案外いっぱいあるのかなって。

親にも「お前変わったな」って言われます。
家の外に出るようになったことにも
びっくりされていて。

よしゆきくん

10歳から漫画家を目指す元高校生。中学生のころは不登校で自宅に引きこもっていたそうです。2019年の春からは、「独学ばかりだったから基礎を学びたい」と考え、専門学校に進学します。

たくさんの方に支えていただきました。

D×Pが、経済的にしんどさを抱えた高校生が集まる公立高校でクレッシェンド、いごちかふえ、ライブエンジンが実現でき
新事業に取り組めるのは、ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。
一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。

(故) 福武純子様	桂大介様	まいにちさん	 株式会社近畿サービス様
末次由紀様	藤野英人様	TIGALA株式会社様	株式会社Nana様
 GODO EISEI CO., LTD. 合同衛生株式会社様	大塚雄三様	 太田ネフロクリニック 医療法人社団実習会 太田ネフロクリニック様	 Japan Parking Service 株式会社日本駐車場サービス様
藤原雅樹様	 北海道ボラコン株式会社様	 OFFISCO オフィスコ税理士法人様	 Office NOZAWA 有限会社オフィス・ノザワ様
木下慶彦様	Kurokawa Ltd. 株式会社Kurokawa様	 昭和技研株式会社様	中村勇太様
 株式会社ナオミ様	畑中洋亮・亜希子様	 NORTHTEC ノーステックテレコム株式会社様	

● マンスリーサポーター（定額寄付会員）

448

 名

単発寄付は104名、TECH募金は87名・事務所増床は332名の皆様にクラウドファンディングでご支援いただきました。たくさんのご寄付をありがとうございます。

● 寄付者の声

漫画を描くことしか得意じゃない自分ですが、趣味は経済ニュースを見ることです。絵を描くために机に座っていても、どうしていいかわからない孤立と、システムの不備からくる困難に足がすくんでしまうのが見えてきます。一人一人に違う問題があることがわかります。D×Pを私が応援するのは、扉を開け外に出て「どうしたの？大丈夫？」と語りかけにいく組織だからです。自分には大きな力はないけれど、良いものをパスできる存在でありたい。その思いを助けてくれるD×Pと、語りかけに答えてくれるみなさんを応援しています。

末次由紀さん / 漫画家『ちはやふる』著者

● 助成団体（敬称略）

ウォータードラゴン財団
公益財団法人トヨタ財団
子供の未来応援基金
大和証券グループ
株式会社セールスフォース・ドットコム

花王ハートポケット倶楽部
Panasonic NPOサポートファンド
NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド
公益財団法人熊西地域振興財団
株式会社モンベル

去年、京都大学で今井さんの講演があり、そこで初めてお話を聞きました。「日本の若者には途上国の若者とは違った苦しさがある」という言葉にハッとさせられました。そしてD×Pのプログラムのきめ細やかさに驚きました。支援を必要としている高校生たちは、そもそも支援の場から遠いところにいます。そこにどうやってリーチしていくのか、LINEを使った相談などとても大切だと思いました。毎月届くメルマガも、D×Pの「今」が生き生きと伝わってきます。これからも応援していきたいです。

西郷南海子さん
/ 京都大学教育学研究科博士課程在学中 3人の子どもの母。

2018年度 活動計算書

（2018年4月1日から
2019年3月31日まで）

※ 今年度はその他の事業を実施していません。

科目	金額(単位:円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	10,000	
賛助会員受取会費	0	10,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	55,333,833	55,333,833
3. 受取助成金等		
受取助成金	13,390,607	13,390,607
4. 事業収益		
教育支援事業収益	6,565,107	
講演活動事業収益	2,650,067	9,215,174
5. その他収益		
受取利息、他	850,904	850,904
経常収益計		78,800,518
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	28,307,474	
法定福利費	4,098,916	
計	32,406,390	
(2) その他経費		
旅費交通費	13,434,167	
賃借料	1,279,218	
通信費	435,605	
消耗品・備品費	324,841	
雑費他	6,431,758	
事業費計	21,905,589	54,311,979
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	6,272,471	
法定福利費	783,097	
計	7,055,568	
(2) その他経費		
旅費交通費	1,092,320	
消耗品・備品費	1,177,419	
賃借料	497,807	
通信費	290,953	
雑費他	9,364,274	
管理費計	12,422,773	19,478,341
経常費用計		73,790,320
当期経常増減額		5,010,198
III 経常外収益		
-		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
-		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		5,010,198
法人税、住民税及び事業税		70,855
当期正味財産増減額		4,939,343
前期繰越正味財産額		31,219,574
指定正味財産増減額		-21,376,027
一般正味財産増減額		0
次期繰越正味財産額		14,782,890

受取寄附金
昨年度から813万円増収しています。個人からのご寄付は1,719万円、個人の資産家/投資家の方や法人からの10万円以上のご寄付は3,784万円となりました。

受取助成金
トヨタ財団様、ウォータードラゴン財団様、セールスフォース・ドットコム様からのご助成金となります。なお、p15掲載のご助成団体様よりの助成金は、2018年度の活動に充てられておりますが昨年度分もしくは2019年度分として計上されています。

事業収益
昨年度から204万円増収しています。講演のご依頼数および単価が上がり、講演事業収入が115万円増収したこと、シェアハウス事業を開始したことが要因となっています。

事業費-人件費
事業費の人件費は昨年度より883万円増額しています。高校現場を担当する職員は6名（うち1名が7月に退職、1名が10月に入社）・ファンドレイジング部門職員は3名（うち2名は1月入社のため3ヶ月分のみ）です。

事業費-旅費交通費
事業費の交通費は昨年度より672万円増額しています。次年度の東京・埼玉での事業展開に向けて関東に行く回数が増したほか、高校生がドイツなどへのスタディツアーや東京のプログラミングキャンプに参加するための旅費が増えたことが影響しています。

事業費-賃借料
年度途中の12月に事務所を増設したため昨年度より71万円増額しています。これまで入居していたビルの1Fを追加で借りて、高校生コワーキングスペースとして登録した10代に無料開放しました。個別面談や、コンポーザー募集説明会なども行いやすくなりました。

事業費-雑費
クレッシェンドのワークの景品（お菓子・文房具）やいごちかふえに必要な飲料費・軽食代、雑誌やアナログゲーム、ボランティア保険代、広報物の印刷/デザイン費などが含まれています。

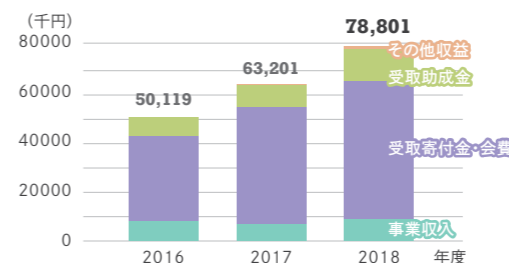
管理費-消耗品・備品費
12月の事務所増設により、棚・机・椅子・ソファ・畳など新たにいくつかの備品や消耗品を買い足しています。

管理費-雑費
雑費は主に、経理業務や広報の業務委託費、ソーシャルマネジメント合同会社への経営コンサルティング費、全体ミーティングや職員合宿の会場費が充てられています。

指定正味財産増減額
(故)福武純子様より頂戴したご寄付のもと、2016-2018年度の3年間に渡って1500万円ずつ寄付を充ててほしいというご意向に基づいて今年度もご指定の額を指定正味財産から寄付として受け取りました。

次期繰越正味財産額
次年度は、定時制高校6校で授業プログラム・居場所事業・進路相談のいずれか2つ以上を導入してより一人一人の生徒に関わる回数を増やすほか、卒業後のサポートができる体制を築いていきます。オンライン事業で出会える生徒の層も広がっていきます。繰越金は次年度の取り組みに充てていきます。

● 経常収入 3期比較



※ 紙面の都合上こちらは掲載できませんでしたが、財産目録・貸借対照表はD×Pのwebサイトに開示しております。合わせてご覧くださいませ。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、認定特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。
監事 毛受 芳高（一般社団法人アスパン）
会計監査 大磯 毅（株式会社わかば経営会計）

『寄りそう』から『その先まで』

vision

ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる社会



どうやってビジョンを実現するのか

- 事業戦略 1** 全国6都市でD×Pが価値を体現している場をつくります。
定時制・通信制高校の生徒をメインに関西、関東、札幌、仙台、福岡、名古屋の各地で200名以上の高校生が、人や地域とつながれる場をつくります。いつでも就労相談に乗れる仕組みをつくり、卒業後も関われる場を広げます。
- 事業戦略 2** オンラインで入口拡大、全国の対象を支援できる体制／連携先を作ります。
全国に連携先を増やし、生徒のつなぎ先としても機能させていきます。全国どこにいても、D×Pコミュニティへの入り口があるように、オンラインでも対応できるノウハウを構築していきます。
- 事業戦略 3** コンポーザー、寄付者、企業など様々な仲間を増やしていきます。
D×Pが直接事業を行う場を持つことで、D×Pに共感し参画できる人を増やします。独自の研修を行い、価値観を伝播し体現できる人が社会にいることやいきるシゴトができる場を作っていきます。

代表理事：今井より

D×Pの2030年ビジョンは「10万人の若者が希望を持って生きるコミュニティをつくる」です。日本の国家予算では社会保障に主な資金を投じており、子ども・若者の支援や育成に投資できていません。NPOはこれから国に代わってセーフティネットづくりを担う存在になっていくのではないかと思います。D×Pは学校現場やオンラインをフィールドに、様々な方と連携しながらつながる場をつくり、世の中の仕事に繋げたり、住環境をつくったりしながら、若者が「明日を生きていける」と思えるようなコミュニティを生み出していきます。ゆるやかに強いセーフティネットを共につくっていきましょう。

高校生が卒業後も社会関係資本を得られる状態をつくる

関西の定時制高校6校で D×Pの事業を2つ以上導入

2018年度は、D×Pの取り組み(クレッシェンド、いごちかふえ、ライブラボ)が2つ以上導入された学校が4校に増えました。2019年度はこれを6校に増やし、高校生が「卒業後も社会関係資本を得られる状態になること」を目指します。卒業後の進路確定、D×Pコミュニティへの所属、地域に頼れる人がいる、生徒と先生向けアンケートの4つで、成果達成の度合いを判断します。各学校や地域には、それぞれの特性や地域課題があります。この3年間は学校ごとに特色のある取り組みを行いモデルとなる事例をつくり、全国6都市展開に向けた準備をしていきます。

卒業後も集まれるコミュニティづくり

これまで取り組みを続けるなかでわかってきたのは、卒業後に頼れる人や場所が激減し、早期退職につながったり、適切な福祉の支援が受けられずに孤立していくケースが多いことです。2019年度は卒業生やコンポーザーが定期的集まる場を設け、卒業後困ったことがあった時にすぐに頼れる機会として機能させていきます。

児童福祉・就労相談の組織としての 知識やスキルアップ

居場所事業や就労相談などの生徒への個別対応案件が増えたことにより、スタッフが高校生一人ひとりに提供できるひきだしを増やす必要が出てきました。就労相談や福祉の専門家を講師に招いて組織として研修を実施し、スタッフのスキルアップを図ります。

事業部長：川上より

D×Pが目指す「人とのつながり」とは？

私たちが関わる生徒の多くは、人が一般的に持っていると考えられるつながり(親・先生・友人)を持ちづらい環境にいます。そのため、社会関係資本を得づらいです。D×Pは、親・先生・友人に代わるような「人とのつながり」をつくっていくことで、生徒が社会関係資本を得ていけると考えています。高校卒業後は、生徒自らつながりを持っていけるようにサポートが必要です。



全国の対象者に 「つながる場」「いきるシゴト」「いきる暮らし」を支援できる体制

全国のNPO、企業、自治体などとの連携

連携先を増やし、生徒のつなぎ先としても機能させていきます。どこにいても、D×Pコミュニティへの入り口があるように、オンラインでも対応できるノウハウを構築します。

D×Pの事業に参画できる人を増やします

クレッシェンドに参加する コンポーザー

年間 **200** 名
/2018年度 **126** 名

マンスリーサポーター

年間 **700** 名 /2018年度 **448** 名
寄付目標 **8,300** 万円 /2018年度 **5,533** 万円

広報部長：入谷より

2018年度は、南大阪・兵庫・札幌など大阪市内から離れた地域でのコンポーザーの参加数が少ないことが課題でした。2019年度はそれぞれの地域に特化した広報施策に注力していきます。また、寄付集めにおいては、事務所増設のクラウドファンディングで332名の方から512万円のご寄付をいただきました。様々な方が自分のことのように手に汗握って達成を見守り、シェアしていただいたことが印象的でした。今後3年は、「寄付を集めるひとを増やす」というコンセプトのもと、様々な方が発信しやすい仕組みをつくっていきます。

